



被爆八十年ギャラリー

深堀素行氏志願時家族写真（同氏は右から2番目）

朝鮮・清州市

深堀素行氏は、朝鮮・清洲の日本人学校に就学していたが、昭和 19（1944）年 10 月に 15 歳で志願し、海軍飛行予科練習生（予科練）に入隊した。

初め、鳥取県美保航空隊に配属されたが、乗る飛行機がなく、佐世保、舞鶴、また佐世保と転々とした。

佐世保市相浦町滞在時、広島原爆の投下があった。その後、北海道へ移動の途中、長崎原爆の投下があり、千歳空港に到着して終戦を知った。

故郷清洲への帰還手段はなく、偶然保持していた入隊時の書類に、本籍が本原との記載を見つけ、長崎へ向かうことにした。

船での復員の途上、知り合った男性から、「長崎は全滅しているから、何かあれば、うちを訪ねなさい」と、五島・玉之浦の住所を覚えてもらった。船は大波止に着港したが、一面凄惨な状況であり、本籍地や親類を探すどころではなかった。